

厚木基地を取り巻く現状



米海軍主力艦載機
F/A-18Eスーパーホーネット

下条防衛大臣政務官に市民の置かれて
いる現状を説明する大和市
基地対策協議会会長の大木市長
(防衛省) (5頁参照)



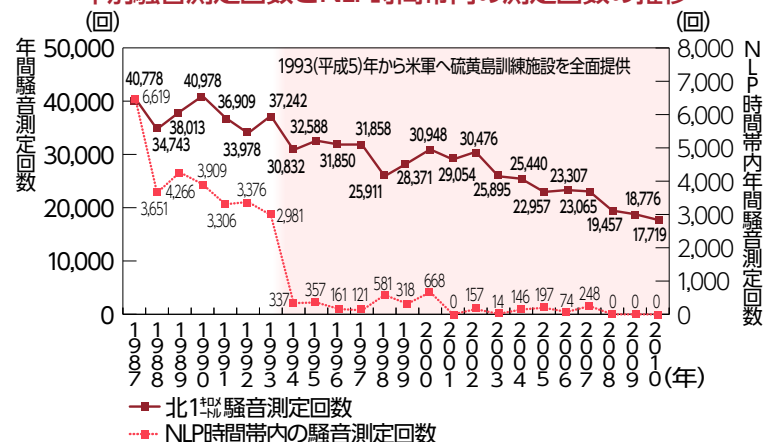
現在、厚木基地をめぐるさまざまな課題があります。中でも航空機の騒音は市民生活に大きな影響を及ぼしています。その主な原因は、米海軍の空母艦載機によるものです。今号では、私たちの身近にある厚木基地の問題について改めて振り返るとともに、厚木基地をめぐる現状と大和市の取り組みについてお知らせします。

月別航空機騒音測定データ(平成23年)



大和市内における航空機騒音測定回数(滑走路北約1kmにおける70分以内、5秒以上の騒音回数)

年別騒音測定回数とNLP時間帯内の測定回数の推移



このNLPは、1982(昭和57)年から厚木基地で実施されるようになり、市民生活に特に大きな影響を与えていました。その後、厚木基地からおおよそ1,200m離れた東京都小笠原村の硫黄島に作られた訓練施設が1993(平成5)年に米軍へ全面提供されてから、NLPの9割以上が同島で実施されています。しかし、硫黄島の天候などの状況により、NLPは厚木基地でも実施されることがあるため、市ではNLPは厚木基地で実施しないよう繰り返し国や米軍に求めています。なお、こ

れまでの過去4年間で、NLPはすべて硫黄島で実施されています。このNLPは事前に米軍から防衛省を通じて公表されますが、日ごろの飛行を含めNLP以外の飛行についてはスケジュールなどが明らかにされることはありません。

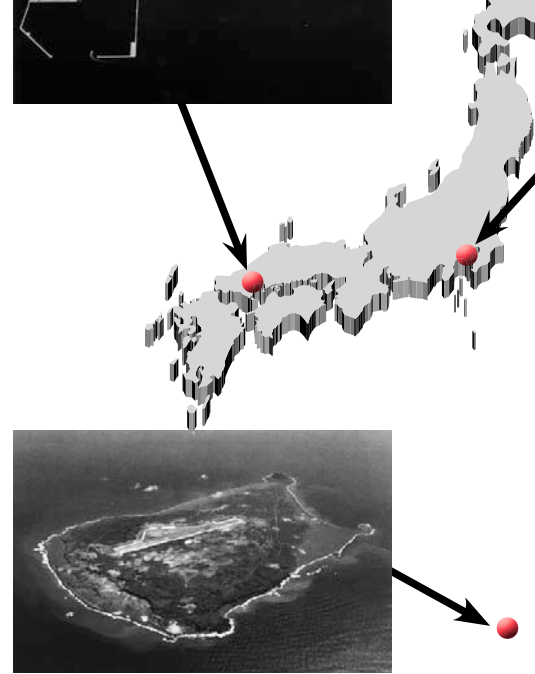


NLPの光跡(厚木基地)

今年3月末に滑走路沖合移設事業が完了した山口県の岩国飛行場



人口密集地にある厚木基地



硫黄島

厚木基地に関する在日米軍再編の動向

2006(平成18)年5月に日米西国政府により発表された再編実施のための日米のロードマップでは、厚木基地の空母艦載機59機を2014(平成26)年までに山口県の岩国飛行場に移駐させることや、硫黄島に代わる恒常的な訓練施設を選定することなどが示されています。

この空母艦載機移駐について、日米両国政府は、今年6月21日に開催された日米安全保障協議委員会(J2プラス2)においてこれまでの進展を歓迎するとともに、恒常的な訓練施設について、鹿児島県の馬毛島を米軍の空母艦載機離着陸訓練の恒久的な施設として検討の対象とすることを合意しました。この動きと前後して、検討の対象とされた地元周辺ではさまざまな動向が日々報じられていますが、2009年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することが目標とされている恒常的な訓練施設は、まだ選定されていません。

空母ジョージ・ワシントンとその艦載機

今年6月に横須賀を出港していた米海軍の空母ジョージ・ワシントン(以下G・W)は8月25日、横須賀に入港しました。これに先立ち、前日の24日、朝から多くの艦載機が厚木基地に飛来し、市民に騒音被害をもたらしました。

通常、空母が横須賀に入港する直前、艦載機は洋上の空母から厚木基地に飛来します。逆に、空母が横須賀を出港すると艦載機は洋上の空母に着艦し、航海に出ます。そして空母が横須賀に入港している間、艦載機は厚木基地を拠点として飛行活動を繰り返すことから、市民に甚大な騒音被害をもたらします。

空母の横須賀母港化は、1973(昭和48)年に空母ミッドウェイが入港して以来続いており、最近では、一年のうち約200日間、空母が入港しています。空母G・Wは、入港からおおよそ1か月たった9月19日に横須賀を出港し、ほとんどの艦載機も翌20日までに厚木基地から飛び立ちました。

NLPと硫黄島代替訓練施設

空母が横須賀を出港する前になると多くの場合、空母への着艦を想定して、滑走路の一部を空母の甲板に見立てて離着陸を繰り返すタッチアンドゴーなどの訓練「FLCP(Field Carrier Landing Practice)」が実施されます。このうち夜間に実施されるものはNLP(Night Landing Practice: 夜間連続離着陸訓練)と呼ばれています。



空母ジョージ・ワシントン(米海軍ウェブサイトより)

厚木基地の航空機騒音